

令和5年度事業計画

我が国は2020年に「2050年カーボンニュートラル」を宣言し、「グリーン成長戦略」を策定、2兆円のグリーンイノベーション基金をNEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）に造成した。策定された14の重点分野のうち、水素はその主要項目として位置付けられ、水素製造、輸送、貯蔵、利用のサプライチェーン全体において幅広い分野での技術開発が進められている。

当センターは、水素エネルギー新産業の育成、集積を推進する中核拠点の役割を担うものとして、企業や研究機関が研究開発する水素関連製品の性能試験を通して、新規参入支援、開発促進を図っており、その役割の重要性はますます大きくなっていく。

令和5年度はFCV、水素ステーションといったこれまでの高圧水素中心の取組からさらに発展し、バス、トラック、鉄道、船舶、産業機械といった適用領域の拡大や、水素媒体（液化水素、水素貯蔵材料、バイオマス、合成燃料、アンモニア、MCH）、産業利用（製鉄、発電）など幅広いニーズに対応した試験要求が見込まれる。

I センター運営・管理

1. 評議員会、理事会

財団の適正な運営管理を行うため、評議員会、理事会を開催する。

評議員会 2回（6月、3月）

理事会 2回（5月、2月）

※審議事項案件により開催回数の変更あり、開催月は予定。

2. 試験研究設備等の整備

試験室の安定稼働確保のため定期自主検査、計画補修、新規設備の導入を行う。

・CRADLE棟高圧水素ガス製造設備（HYDROGEA）の代替機導入

長期利用契約の顧客に対応した試験室利用。設備持込設置による試験室仕様の変更。

・振動試験室 ⇒材料評価試験室

・多目的試験室 ⇒顧客の専用試験室としての利用

・CRADLE棟大型水素試験室 ⇒高圧大流量対応の顧客設備の設置

II センター事業

1. 製品試験事業

(1) 企業・研究機関等からの受注試験

企業等が開発する「バルブ」「センサ」「計測装置」「FCV高圧水素システム部品」「水素ステーション部品」など水素関連製品・部品等の性能・耐久試験を引続き実施する。

高度化する圧力制御、昇圧・脱圧速度制御、環境温度制御、試験流体流量・温度制御

などの顧客要望に対応した制御システムの構築を図る。

(2) 新規顧客の開拓

- ・ info メール (info@hytre.jp) を通しての新規顧客からの問合せに迅速に対応する。
Web 会議の積極的利用による顧客との打合せ
- ・ ホームページの改定による情報発信の強化
試験委託に導きやすい表紙、内容に刷新する。
- ・ 新規領域への取組み

高圧水素環境下における材料試験 (SSRT、疲労、疲労き裂進展、破壊靱性) 分野参入に向けた取組みとして、2023 年度の顧客持込材料評価試験装置の運用に携わり、2024 年度以降の HyTReC 独自の材料評価試験装置 (他機関からの譲渡・移設を想定) の速やかな立上げに備える。

(3) 試験室、試験装置の稼働率アップ

- ・ 稼働率の低い試験室の改装、試験装置の撤去を検討し新規領域に対応した試験設備の導入に対応していく。
- ・ 稼働状況を考慮した保守点検、消耗部品予備品の確保、故障時復旧時間短縮のため業者委託から自主補修への切替を図る。

(4) ISO/IEC 17025 認証取得の取組み

- ・ 国際規格の ISO/IEC 17025 認証の 2023 年内の申請に向けて引続きコンサルタントからの指導を受け、内部監査、マネジメントレビューの実施に取組み審査申請書を提出する。
- ・ 今後は申請範囲の拡大 (液圧試験⇒水素ガス圧試験) を目指していく。

2. 研究開発事業

HyTReC 主体研究、共同研究

- ・ 大学、研究機関と共同し、水素関連製品の評価手法 (試験法) 確立のための研究開発を実施する。(随時)
- ・ 水素関連製品の製品化を目指す企業に対し、共同研究の実施や製品開発アドバイス等を行う。(随時)

3. 研究交流事業

(1) 技術展への出展

福岡県と協力し、FCEXPO、福岡県水素グリーン成長戦略会議総会等の場で HyTReC

のPR活動を行う。

(2) 施設見学、講師派遣

水素社会の実現に向けて企業・団体・学校からの見学依頼、講師派遣依頼に対応し理解向上を図る。

(3) 国際標準化の推進活動

水素技術に関する国際標準化機構 ISO/TC197（水素技術）への参画により、水素の製造、輸送、貯蔵、利用、エネルギー分野に関する国際標準化活動に貢献していく。

(4) 企業訪問

顧客となる企業・研究機関（FCV・水素ステーション関連、国プロジェクト参画企業等）に対し、技術交流、相互訪問を行う。